

2023年度 事業所における自己評価表 (公表用)

評価期間 2024年1月15日~2月14日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善内容や改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	7			
	②	職員の配置数は適切である	7			
	③	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされている	7		建物の構造上、バリアフリーに関しては仕方のない都合はあるが、適切に介助を行い、利用児のフォローを行うことができる。	
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また子ども達の活動に合わせた空間になっている	7		今年度より訓練室のカーテンを設置したことで、広い空間を仕切ることができた。	
業務改善	⑤	業務改善を進める為の目標設定と振り返りに広く職員が参加している	7		・なるべく職員が揃うタイミングで話すようにした。 ・個別が入っていない時間に振り返りや対応策など、子どもや保護者について話し合う時間を作っている	・タイミングが合うことが少ないため、時間の確保を行いたい。 ・なかなか時間を作るのも大変なことがあるため、業務の効率を意識していく必要がある。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し、業務改善に繋げているか	7			
	⑦	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うと共に、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2		
	⑨	職員の資質向上の為に、研修の機会を確保している	7		研修報告会を開き、職員全員に共有している。	内部研修も多く行えるよう環境を整えたい。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	1	担当指導員だけでなく職員全員、情報を共有している。	更にアセスメントを適切に行いたい。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	2		アセスメントツールの使用やツールの強化を行いたい。ツールを再構成する。
		児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人及び移行支				

適切な支援の提供	⑫	「発達支援(学外及び学内支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			
	⑬	児童支援計画に沿った支援が行われている	7		各担当が支援計画の原案を考えることで定着を図っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		週案を月曜リーダーが立てるようになった。	
	⑮	子ども状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて計画書をしているか	7		見学時に子の様子と保護者のニーズを把握するよう努め、利用の仕方を勧めている。	
	⑯	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、細かく利用児について申し送りをし、情報共有を努めると共に改善点や工夫すべき点、良かった点などについて話し合っている。 ・打ち合わせに参加できないスタッフも後日確認できるように、ノートに記載して記録を残している。 ・気づいたこと、気になったことなどを伝えたり、個別活動の記録をしたりしているが、日頃の子供の姿や今後の関わりを共有していくために、日々の記録をうまく活用していきたいと思う。話し合う時間をもっと取れれば良いが、現状難しい。 	振り返りが「必ず」となるよう、時間調整を行う必要がある。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の改善に繋がっている	7		連絡帳以外にも記録を取り、スタッフ間で情報共有し、細切れにならないようにしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを行っている	7			
		㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した者が参画しているか	6	1	
㉒		子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
㉓		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園等との間で支援内容の情報共有と相互理解を図っている	7		園を訪問して園での様子を見た上で支援内容の情報を共有したり、アドバイスをしている。	一部の園となっているので、つながりを増やしていきたい。

保護者や関係機関との連携	②④	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で支援内容の情報共有と相互理解を図っている	5	2	就学時に、保護者へ引き継ぎ書をお渡ししている。	
	②⑤	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所などの専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		
	②⑥	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	今後交流する機会を作っていると良いと思う。	
	②⑦	(自立支援)協議会子ども会や地域の子ども、子育て会議等で積極的に参加しているか	2	5		
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時や連絡帳でその日のお子様の様子を伝え、特に変化があった事柄は丁寧に伝え共有している。	
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	3	4	面談時は特に意識して行っている。	
保護者への説明責任など	③⑩	運営規程、利用者負担額等について、丁寧な説明を行っている	7			
	③⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画書」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者からの同意を得ている	7		面談では日頃のお子様の様子や成長具合などを伝えながら、ご家庭の様子も詳しく伺い、問題点、困りごとを共有している。	
	③⑫	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	③⑬	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	6	1	・保護者を孤独にしないよう、必要な人には交流の機会を提供すべく、保護者会開催の告知方法等、アプローチの仕方を再検討したい。(紙面でのお知らせの方が有効か?) ・お話し会(懇親会)を開催した(参加者少なく保護者同士の連携の支援までには至っていない)	参加者が少なかった。内容の検討を行う。
	③⑭	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			

	③⑤	定期的に活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	③⑥	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	③⑦	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	③⑧	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	地域との交流は難しいが、明るく挨拶するなど親しみやすい雰囲気作りを心掛けている。	
非常時の対応	③⑨	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を定期的に行っている	7			
	④⑩	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7			
	④⑪	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	④⑫	ヒヤリハットの情報をただ紙に記入するだけでなく、職員間で共有されている	7			
	④⑬	虐待を防止するため、職員の研修機会を設けるなど適切な対応をしている	7			
	④⑭	どのような場合にやむを得ない身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、計画書に記載している	6	1		